

## 看護行為に共通する看護技術Ⅰ シラバス

授業科目	看護行為に共通する看護技術Ⅰ	分野/教育内容	基礎分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次(時期)	1 年 前期(4/20)	単位数/時間	1 単位/30 時間
講師名	竹山 やすえ	所属・役職	岩手県立宮古高等看護学院
		資格・免許	専任教員、看護師
ねらい	看護実践における看護技術の意義、心構えについて理解する。問題解決思考を基本とした、看護過程における思考の方法を修得する。記録と報告の重要性、意義について理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護記録の目的と意義、看護記録に関する法的規定について理解できる</li> <li>・看護記録の構成要素、看護記録の記載基準について理解できる</li> <li>・患者の情報管理に関する看護学生の責任について理解できる</li> <li>・看護過程の基本となる考え方、看護理論と看護過程について理解できる</li> <li>・看護診断の意義と目的、今後の展望について理解できる</li> <li>・看護過程におけるアセスメントと計画立案の方法及び計画を実施する上での注意点・評価の方法を理解できる</li> <li>・アセスメントから看護計画を立案できる。</li> </ul>		
事前学習内容	講義が夏休み期間を挟むため、夏休みに課題を課す予定です。		
成績評価の方法	1.終講試験(85 点満点)    2.レポート(課題①)10 点、レポート課題②5 点    合計 100 点		
使用テキスト 参考書	1. 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メジカルフレンド社)    2. 看護六法(新日本法規) 3. 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド ～ヘンダーソン、ゴードン、NANDA の枠組みによる～ (照林社) 4. 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン (日本看護協会出版会)		
回数	授業概要	授業方法	
1	看護技術とは	講義	
2	看護記録の目的と意義、看護記録に関する法的規定	講義	
3	看護記録の構成要素、看護記録の記載基準	講義	
4	看護過程と問題解決過程	講義	
5	ヘンダーソンの基本的ニードと情報収集の視点	講義	
6	ヘンダーソンの看護論と看護過程の展開	講義	
7	アセスメント:情報収集	講義	
8	アセスメント:情報の解釈と分析	講義	
9	全体像と看護問題の抽出	講義	
10	看護計画立案①	講義	
11	看護計画立案②	講義	
12	事例検討	講義	

13	看護計画に沿った実践と評価	講義
14	看護計画の評価、サマリー	講義
15	看護診断と看護過程	講義
16	終講試験	
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使用する参考書・文献を活用し、関連する範囲は自己学習して講義に臨むこと</li> <li>・講義で配布される資料を熟読し、課題や事後の学習に活用すること</li> </ul>	

初回講義 4/13(火)は基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱを持参してください

令和 3 年度 59 回生 授業概要（シラバス）

科目名	看護行為に共通する 看護技術Ⅱ (感染看護)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 令和 3 年 4 月 20 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 看護行為に共通する看護技術Ⅱは、コミュニケーション技術：14 時間、感染看護：12 時間、事故防止：4 時間の 3 単元を合わせて 1 単位
担当講師名	吉川 百合江	所属・役職	県立宮古病院師長補佐
		資格・免許	感染管理認定看護師
授業の概要	感染症の基礎知識、標準予防策を含む感染防止について基本的な考え方を学び、具体的な技術を習得する。		
到達目標	感染症の基礎知識・感染防止における具体的技術を理解し、臨床場面において標準予防策が実践できる		
事前学習内容	該当するページを予習してから、講義に臨むこと		
成績評価の方法	終講試験による評価、演習及び講義での態度・姿勢、出席状況		
使用テキスト	基礎看護技術Ⅰ（メジカルフレンド社）、看護技術ベーシックス（サイオ出版）		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	感染予防の基礎知識 (標準予防策について、感染予防における看護師の役割について)		講義
第 2 回、第 3 回	実技：手指衛生、防護用具の着脱		演習
第 4 回	感染源への対策（洗浄・消毒・滅菌について）		講義
第 5 回	実技：滅菌物の取り扱い		演習
第 6 回	感染源の拡散防止		講義
	終講試験		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や事前に配布される資料には必ず目を通してから講義に臨む</li> <li>・グループワーク・演習には積極的に参加する</li> </ul>		

令和3年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	看護行為に共通する看護技術Ⅱ(事故防止)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 2021 年 5 月 10 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 3 単元で構成される ・ コミュニケーション：14 時間 ・ 感染看護：12 時間 ・ <u>事故防止：4 時間</u>
担当講師名	山本 穰	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	医療事故、事故防止への取り組みの概要を理解し、事故防止策と安全管理を学ぶ		
到達目標	1. 医療事故の発生要因を理解し、事故防止策の基本を知る 2. 看護師が当事者となる事故にはどのようなものが多いか、看護業務の特性と併せて知る 3. 事故防止のために講じるべき対策を知る		
事前学習内容	事前に教科書の「第 5 章 安全管理の技術」に目をとおしておく		
成績評価の方法	看護行為に共通する看護技術Ⅱの科目全体で 100 点満点のうち、本単元の配点は 10 点であり、試験で評価する。 <u>授業中寝てしまい、講師に注意されたらその都度 1 点減点</u> する。本科目の 3 単元の合計点が 60 点未満/100 点の場合は、3 単元全て再試験となる		
使用テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社) 第 5 版第 7 刷 2. 新訂版 看護技術ベーシックス 第 2 版第 6 刷 (サイオ出版) 3. 医療安全ワークブック 第 4 版第 3 刷 (医学書院)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	医療事故発生のメカニズム(ヒューマンエラー)		講義
第 2 回	医療事故防止策(誤認防止、誤薬防止、転倒・転落防止等)		
履修上の留意点	1. 授業中に指名されたら何かしら反応する。分からなくても何かしらの反応を示す 2. 将来医療従事者として勤務することを意識し、医療事故を起こすのは「明日は我が身」として捉え、授業に臨んでほしい		

令和3年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	看護行為に共通する 看護技術Ⅱ (コミュニケーション)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ /基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 2021 年 4 月 16 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 3 単元で構成される ・ コミュニケーション：14 時間 ・ 感染看護：12 時間 ・ 事故防止：4 時間
担当講師名	山本 穰	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	1. コミュニケーション能力を身につけるために、まずは自分自身の思いを言語や行動で表現することの意義を理解する 2. よい看護実践に必要な、患者と看護師間の意思の疎通と信頼関係を成立・発展させるためのコミュニケーション技術を習得する		
到達目標	コミュニケーションの基本を学び、看護実践の場におけるコミュニケーション習得する		
事前学習内容	これまでの生活の中での対人関係をふり返しておく		
成績評価の方法	看護行為に共通する看護技術Ⅱの科目全体で 100 点満点のうち、本単元の配点は 50 点。出席状況 (1 コマの授業につき 1 点×7 コマ=7 点) + 筆記試験 43 点で評価する。 <u>授業中寝てしまい、講師に注意されたらその都度 1 点減点</u> する。本科目の 3 単元の合計点が 60 点未満/100 点の場合は、3 単元全て再試験となる		
使用テキスト	看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング (医学書院)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	本単元のオリエンテーション、講師・学生の自己紹介		演習
第 2 回	コミュニケーションを学習する理由、コミュニケーションとは		
第 3 回	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション		講義
第 4 回	質問技法		
第 5 回	関係構築の技法		
第 6 回	ロールプレイのシナリオ作成		
第 7 回	ロールプレイ		演習
履修上の留意点	1. これまでの生活の中での親しい間柄でのコミュニケーションだけではなく、学生・社会人・看護者としてのコミュニケーションを学ぶ 2. 授業の内容をふまえ、学校生活を含め、普段の生活でのコミュニケーションの方法に注意する 3. 授業の中でグループで話し合ってもらい機会がある。相手の考えを尊重しながら建設的な意見を出す 4. 普段の生活から、人に関心をもち、相手のことを知る・わかる、自分のことを知って・わかってもらおうとする気持ちをもつ		

令和3年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	看護行為に共通する看護技術Ⅲ (ヘルスアセスメント)	分野 /教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学	
開講年次・時期	1 年前期 令和3年6月22日	単位数 /時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の単元で構成される ・ヘルスアセスメント：26 時間 ・指導技術：4 時間	
担当講師名	山本 穰	所属・役職	専任教員	
		資格・免許	看護師	
授業の概要	1. ヘルスアセスメントの意義を理解し、看護者自身の5 感を使って対象を観察することの重要性を認識する 2. 人間を身体的・心理的・社会的に統合された存在として捉える重要性を認識する 3. 対象の健康問題を把握し、適切な援助につなげるためのアセスメントの技術、その中でも最も基本的なバイタルサイン測定の技術を習得する			
到達目標	1. フィジカルアセスメントの基本技術である診察の技法を習得する 2. バイタルサインの意義、測定方法およびアセスメントのポイントを理解する 3. 全身の系統的なフィジカルアセスメントの必要性とその方法を理解する			
事前学習内容	解剖学で学習した内容を復習しておく(特に心血管系、呼吸器系)			
成績評価の方法	試験(90 点)			
使用教科書	1. 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社) 2. 新訂版 基礎看護技術ベーシック第2 版 (サイオ出版) 3. 写真でわかる 看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス (インターメディカ) 4. フィジカルアセスメントポケット BOOK (照林社)			
授業回数	授業概要(主な学習内容)	授業形態	教科書以外の必要物品	
第1 回	体表解剖とフィジカルアセスメント	講義	特になし	
第2 回	診察の技法		聴診器	
第3 回	バイタルサイン		体温計(持っていれば)	
第4 回			体温	アナログ式の時計
第5 回			呼吸	シャープペン
第6 回			意識状態	アナログ式の時計
第7 回			脈拍	
第8 回	血圧	演習	血圧計、聴診器	
第9 回	血圧測定			
第10 回	バイタルサイン測定			
第11 回	バイタルサイン測定、身体計測	講義	特になし	
第12・13 回	心理的・社会的側面のアセスメント			
	系統的なフィジカルアセスメント	講義→演習	血圧計、聴診器	
履修上の留意点	1. 演習形式の授業が多い。いつでも演習できるように実習着は事前に準備する 2. 講義では動画の視聴があるが、睡魔に負けないように心身を整えておく 3. 教科書の本授業に関連するところに QR コードが掲載されている。事前に QR コードを読み取り、動画を視聴しておいても良い 4. 聴診器と血圧計は、本授業以後も臨地実習で使用するため、使用後はメンテナンスする習慣をつける 5. 聴診器や血圧計に不具合・故障が発生した時には、担任・副担任に相談し、基本的には購入元(県立宮古病院の地下1 階にある「ケアテック」)に個人で修理依頼すること 6. 聴診器と血圧計同様に、アナログ式の時計も今後の臨地実習で使用する。腕時計でも吊り下げ式でも型は問わないので、事前に準備しておく			

令和3年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	看護行為に共通する看護技術Ⅲ (指導技術)		分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 令和 3 年 9 月 29 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 ヘルスアセスメント (26 時間) と指導技術 (4 時間) を合わせて 1 単位である	
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	宮古高等看護学院 専任教員	
		資格・免許	看護師	
授業の概要	指導に必要とされる共通した技術の機能を理解し、各看護学の対象に応用できるよう基礎的技術を習得する。			
到達目標	1. 看護における教育・指導の意義を理解できる 2. 教育・指導を必要とする対象者の特徴を理解できる 3. 基本的な指導の進め方や方法・留意点について理解できる			
事前学習内容	教科書（第 3 章 教育指導技術）を読む。 看護に生かす中範囲理論の教科書を活用し、「保健信念モデル」「トランスセオレティカルモデル」「自己効力感」とはどのような理論か、ノートにまとめておく、			
成績評価の方法	終講試験（10 点）			
使用テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社） 2. 看護実践に生かす中範囲理論 第 2 版（メヂカルフレンド社）			
授業回数	授業概要(主な学習内容)			授業形態
第 1 回	看護における教育・指導の対象の理解、教育・指導に活用できる諸理論			講義
第 2 回	基本的な教育・指導の進め方 終講試験			講義
履修上の留意点	自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨みましょう。			